

掛川市庁内業務のDX推進に向けたデータ分析の実証実験について

掛川市（市長：松井三郎）と西日本電信電話株式会社静岡支店（支店長：片山義生、以下、NTT西日本）は、「ICTの利活用による協働のまちづくり包括連携協定（※1）」に基づき、更なる行財政改革に向け庁内業務のデータ分析の実証実験を実施します。

※1 掛川市とNTT西日本は、ICTを利活用し地域社会の活性化及び住民サービスの向上に連携して取り組むことについて合意し協定を締結しました。（2014年3月5日締結）

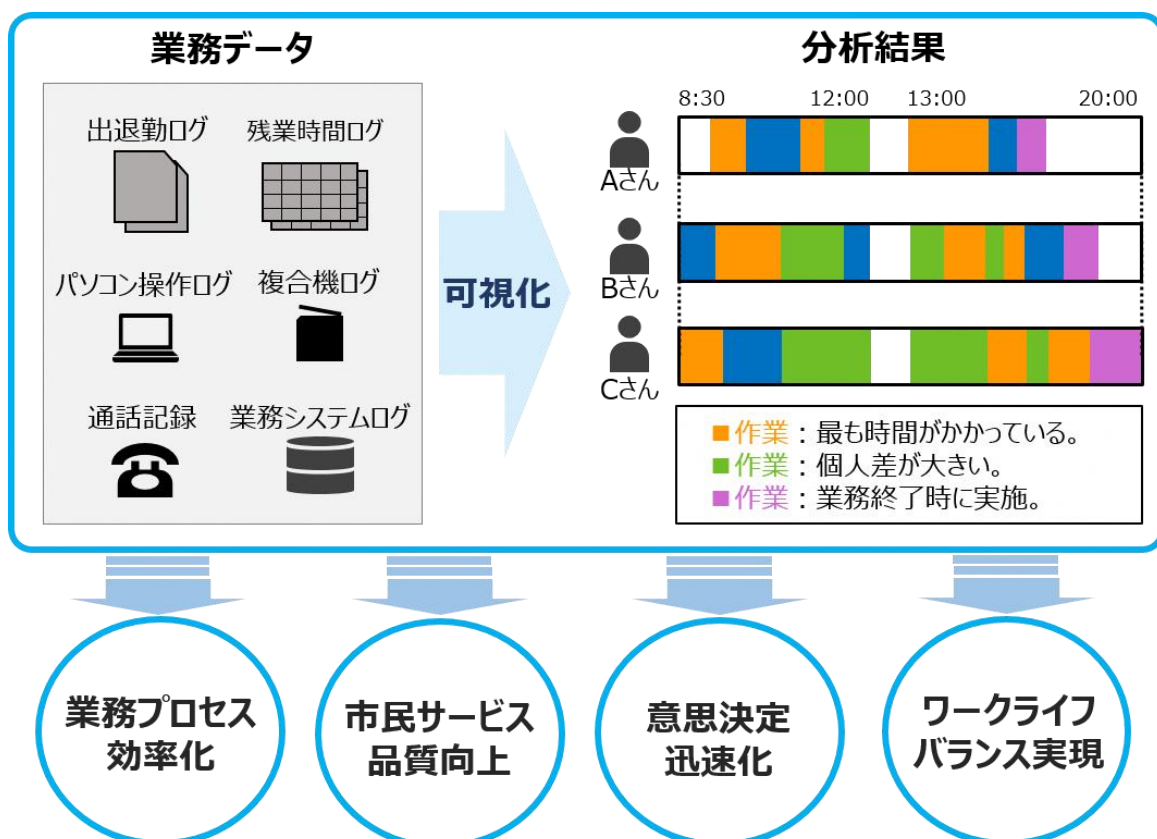
1. 実証実験の目的と背景

掛川市では、これまでAIやRPAをはじめ、ICT技術の導入により持続可能な行政経営に向け行財政改革に取り組んできました。

しかし、少子高齢化による職員の減少、自治体業務の多様化、加えてコロナ禍による業務負担の増大により、更なる業務効率化の必要に迫られています。

本実証実験では、NTT西日本との包括連携協定に基づき、日本電信電話株式会社（以下、NTT）の研究所であるソフトウェアイノベーションセンタ（以下、SIC）のデータ活用・分析のノウハウ及び技術を活用し、庁内業務に関する様々なデータの分析を通して業務実態を可視化し、業務課題を導き出す実証実験を実施します。

2. 実施概要



掛川市が使用する業務システムや職員のパソコン操作データなど、混在する様々な箇所にあるデータを収集することで課題の要因抽出に必要なデータをそろえます。

収集したデータを項目間の関係の強さや注目すべき項目に洗出し、課題解決を行うための予測モデルや、具体的な解決方法を導き出します。

実証実験では、SIC が有するデータ活用・分析に関するノウハウに加え、特徴量の比較を効果的に実現し重要な特徴量を自動的に抽出・可視化できる「データ重要特徴量自動抽出技術 RakuDA® SeleXt (※2)」、および大量のデータから有効な分析モデルを見つけ出し AI 解析を行う「データ分析自動化技術 RakuDA® (※3)」を活用し分析結果に応じた業務課題の検討を行います。

※2 データ重要特徴量自動抽出技術RakuDA® SeleXt

自動的に相関が高そうな特徴量の抽出・可視化を行い、時間短縮・見落としをなくし、大量の特徴量からの知見抽出を効率的に実現します。

※3 データ分析自動化技術RakuDA®

大量のデータより効率的に精度の高い機械学習モデルの構築を実現します。

(「RakuDA®」は、NTTの商標です。)

3. 主な取り組み

- 業務システムや各機器から取得可能なデータと、パソコンの操作データを収集・分析し、業務実態の可視化を行います。
- 営業日毎・個人毎の勤務時間や残業時間の情報から、業務実態の可視化結果と比較・分析を行い、所要時間が長い作業等から、要因候補等の差の有無等を抽出します。
- 分析結果を踏まえ業務課題の検討を行うとともに、AI・RPA等のICT技術を活用し課題解決策を考察します。

4. 実施期間

2020年11月26日（木）～2021年3月31日（水）＜予定＞

5. 今後の展開

本実証実験の検証で得られた知見を活かし、掛川市は“持続可能な行政経営”に引き続き取り組むとともに、NTT西日本は今回の結果を踏まえた他自治体における展開の可能性を検証してまいります。

※ニュースリリースに記載している情報は、発表日時点のものです。現時点では、発表日時点での情報と異なる場合がありますので、あらかじめご了承くださいとともに、ご注意をお願いいたします。

審査 20-1150-1